

# うっしっしいー情報2014

1月市



豊岡農業改良普及センター

1月8日に行われましたセリ市全体の平均価格は、去勢が59万2千円、雌が51万5千円でした。

普及センター調べ（税込価格）

（本人落としも含むため、JA公表数値とは異なります）

地域	去勢			雌			総計	
	頭数	DG	平均価格	頭数	DG	平均価格	頭数	平均価格
宍粟・佐用	8	1.006	582,225	12	0.904	501,725	20	533,925
篠山	4	0.955	538,650	4	0.871	480,638	8	509,644
丹波	14	0.967	585,675	14	0.881	495,375	28	540,525
朝来	8	0.969	591,544	3	0.804	421,400	11	545,141
播磨	11	0.965	587,809	10	0.888	490,980	21	541,700
美方郡	63	0.984	599,750	50	0.877	525,378	113	566,842
豊岡	15	1.010	586,320	16	0.882	547,116	31	566,085
養父	19	1.047	591,758	15	0.895	537,040	34	567,618
摂津・神戸	5	0.960	582,120	1	0.872	530,250	6	573,475
県北C	1	1.148	639,450	4	0.801	430,238	5	472,080
市場全体	148	0.992	591,774	129	0.879	514,590	277	555,829

# 1月市種雄牛ランキング

順位	種雄牛	去勢			雌			総計	
		頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均価格
1	芳悠土井	26	1.005	612,069	20	0.888	552,405	46	586,128
2	丸宮土井	17	0.978	615,053	15	0.859	542,500	32	581,044
3	芳山土井	26	0.984	592,846	26	0.900	531,785	52	562,315
4	千代藤土井	7	0.998	601,650	6	0.942	504,350	13	556,742
	総計	148	0.992	591,774	129	0.879	514,590	277	555,829
5	福芳土井	25	1.040	582,162	20	0.911	521,745	45	555,310
6	照忠土井	11	0.997	584,086	8	0.843	473,419	19	537,489
7	丸富土井	24	0.947	569,581	19	0.848	483,387	43	531,495

価格は税込み (10頭以上の出荷があった種雄牛のみ記載)

## ランキング種雄牛の育種価

	種雄牛	枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	皮下脂肪厚	歩留	脂肪交雑
1	芳悠土井	A++ → A+	A	A+	B	A	A+++
2	丸宮土井	B	A → B	A+	A++	A++ → A+	A++
3	芳山土井	A++	A++	A+++	D	A+	A+ → A+++
4	千代藤土井	A → B	A++	D	A	A+	A+++
5	福芳土井	A++	B	A++	C	C	A+
6	照忠土井	B	A++	B	A+	A++	A+
7	丸富土井	A	A++	C	C	A	A++

北部農業技術センター提供 (育種価評価は平成25年7月現在)

# 子牛が産まれなきゃ、お金も生まれない！！

## パート2 ～あなたの繁殖成績は良好ですか??～

繁殖成績について話すときに「一発で種が付いた!」という話を聞きます。

「一発で種がついた=繁殖成績が良い」ということでしょうか? どうやって繁殖成績を確認すると良いのでしょうか? このことについて考えてみましょう。

### ステップ1. 一年一産ができていますか?

「一発で種が付いた」というのは、発情を見つけ種付けをして、一回で種が付いた状態です。つまり、発情を見つけられず『種を付けなかった期間』は関係ありません。右の表(表1)を見て下さい。牛Aも牛Bも一回で種が付いています。しかし、牛Aは、分娩後60日目に種が付いたので、牛の妊娠期間である285日を足すと  $60 + 285 = 345$  日になり一年一産できます。それに対して、牛Bは、分娩後130日目に種が付いたので、285日を足すと  $130 + 285 = 415$  日となり一年一産にはなりません。

表1. 発情発見、受胎回数と一年一産

	分娩	50	71	92	113	134	155	日後
牛A		種付け 受胎 60日目						
牛B					種付け 受胎 130日目			

ただし、分娩後50日は、発情がきても種付けしないとします。

### ステップ2. 繁殖指標で考える

では、どのように考えると良いのでしょうか?

今回注目するのが、新たな繁殖管理の指標である「妊娠率」です。妊娠率は、いかに発情を見逃さず種付けし、受胎させるかで決まります。妊娠率は次の方法で計算します。

$$\text{妊娠率} = \text{発情発見率} \times \text{受胎率}$$

それでは、例を挙げて説明しましょう。

この農家には牛A・B・Cの3頭がいます

- 牛Aは、分娩後1回目(60日目)の種付けで受胎しました。
- 牛Bは、分娩後2回目(130日目)の種付けで受胎しました。
- 牛Cは、2回種付けをしましたが、受胎していません。

#### ①発情発見率

発情発見率とは、

(各牛の種付け回数の合計) ÷ (各牛の種付け機会数の合計)

で計算できます。

種付け機会とは、発情と次の発情までの期間の回数で示されます。

種付け回数: 牛Aが1回、牛Bが2回、牛Cが2回です。

種付け機会: 牛Aで①の1回、牛B・C: ①~④の4回

この農家の発情発見率は、(1 + 2 + 2) 回 ÷ (1 + 4 + 4) 回 = 0.56 (56%) になります。

#### ②受胎率

受胎率とは、(受胎頭数) ÷ (各牛の種付け回数の合計) で計算できます。

受胎頭数は: 牛A・Bの2頭

種付け回数: 牛Aが1回、牛Bが2回、牛Cが2回

この農家の受胎率は、2頭 ÷ (1 + 2 + 2) 回 = 0.4 (40%) になります。

⇒ この農家の妊娠率は、①発情発見率と②受胎率から

$$56\% \times 40\% = 22\% \quad \text{となります。}$$

一般的に一年一産するには妊娠率が42%以上必要と言われています(これについては、次回に詳しく説明します)。

表2. 繁殖状況の具体例

	分娩	50	71	92	113	134	155	日後
牛A		種付け 受胎 60日目						
牛B			発情発見できず		種付け 受胎せず 100日目	種付け 受胎 130日目		
牛C			発情発見できず		種付け 受胎せず 110日目	種付け 受胎せず 140日目		
授精機会			①	②	③	④	⑤	回目

分娩後50日は、発情がきても種付けしないと農家自身が決めた日数



繁殖成績をより正確に示すには、

$$\text{妊娠率} = \text{発情発見率(人工授精率)} \times \text{受胎率} \text{で表すことができます。}$$

つまり

「発情発見の精度を高めることと受胎率を上げることが一年一産への近道」なのです。